



FSCだより

北里大学獣医学部 附属フィールドサイエンスセンター

第39号 2010.11.22

FSCの設立趣旨

土地、植物、動物及びそれらを取り巻く環境を生命系として教育・研究を行うとともに、これらの研究成果を通して、広く地域社会の発展に寄与することを目的とする。

十和田農場から

平成22年度北海道・東北地域附属農場協議会

2年に1度開催される北海道・東北地域附属農場協議会が、本年度は8月9日～10日に山形大学農学部で行われ、10大学、41名の参加があり、北里大学からは、萬田センター長代行、渡辺農場長、八雲牧場からは小笠原英毅さん、十和田農場からは久保田昭二が参加しました。

協議会では、協議事項として附属農場における研究・教育、地域連携機能の強化について、また、承合事項としては農場技術職員の採用状況と担当業務についてなどの話し合いが行われました。また技術系職員懇談会では、技術系職員の通常業務と研究業務のバランスについてなどが話し合われました。

各大学から集まった沢山の人からいろいろな意見が出され、有意義な時間を過ごすことができました。午後からは農場教育研究集会が行われ、各農場が普段行っている業務や研究などについての発表があり、北里大学からは小笠原英毅さんが「八雲牧場職員の研究と実践」と題して、八雲牧場の今までの取り組み、その成果を発表しました。翌日の視察研修では、山形県農業総合研究センター水田試験場と株式会社平田牧場を見学しました。今回の北海道・東北地域附属農場協議会の開催地である山形大学農学部は、山形県酒田市にあり羽黒山、月山など大きな山に囲まれて景観も良く、歴史、文化、食べものすべてにおいて大変素晴らしいところでした。しかし、今年は猛暑？酷暑？と異常なまでの暑さで、協議会の開催中も、連日36度以上の暑さでした。北国育ちの私には多少の厳しさもありましたが大変良い体験でした（久保田昭二報告）。



八雲牧場から

生涯学習委員会催の「北海道まるごと体験 in 北里大学」が行われる

7月27日～30日の3泊4日で十和田市の親子6家族13名が八雲牧場に来場しました。牧場の環境や自然環境について八雲牧場を利用して学びました。野外での体験ができれば良かったのですが、あいにく期間中雨ばかりで屋内での体験ばかりになってしまいました。

動物資源科学科の牧場実習が無事終了

8月4日～8日、8月8日～12日、9月1日～5日、9月5日～9日の4班に分かれて動物資源科学科2年生の牧場実習が実施され、大きな事故もなく無事終了しました。

今年は実習内容を改善して実施しました。来年もさらに実習内容の見直しを予定しています。

医学部1年次生北海道八雲牧場実習

8月23日～26日に、医学部の1年生が実習を行いました。昨年までは希望した学生数名での実習でしたが、今年は抽選で選ばれた30名が参加しました。

内容は牧場の専門的な作業から、牧場の自然を体験する実習を行いました。

天気にも恵まれ、実習を終えた学生達は見違えるようにいきいきした表情で帰途につきました。

ヤマザキ学園の八雲牧場実習

8月27日～29日に、動物看護関係の専門学校、短大、大学を持つヤマザキ学園の牧場実習が行われ、1年生～3年生まで29名の学生が来場しました。

今年初めて行われ、同じ動物関連の学校ということもあり、最初は牛の大きさに戸惑っていましたが、あっという間に牛にも慣れ充実した実習を行うことができました。また他校の受入ということで指導する方法や学生への接し方など、こちらもたくさんのごことを勉強させていただきました。

日本農業気象学会東北支部大会の公開シンポジウムで講演

8月19日に八戸市で行われた公開シンポジウム「東北農業の近未来」で、循環型畜産の実践牧場として八雲牧場から小野泰さんが参加し、講演を行いました。

八雲牧場がどのように現在の循環型畜産を構築してきたか、また今後の課題はどう言ったものかということが報告されました。

東都生協親子体験学習

9月18日～20日に、北里八雲牛を扱っている東都生協の組合員が親子体験に来場しました。牧場ラリーや牛の卵子と精子の観察など屋内外を利用して行いました。北海道の自然を満喫し、都会では普段体験できないような実習となりました。

ヒグマ出没

今年の暑い夏のせいか牧場内に度々ヒグマが出没しました。悪さをするわけではないのでほっておいても良かったのですが、安全対策のため檻を何度か仕掛けたり、猟友会の方が毎日のように巡回しました。

結局捕獲はできなかったのですが、動物資源科学科の3班目の実習ではトラックに乗って展望台へ移動する途中に遭遇することができました。(学生実習でクマを目撃できたのは初めてではないでしょうか…?)

訂正とお詫び

第38号の「生物生産環境学科の実習無事終了」は「生物環境科学科の無事実習終了」、「生物環境学科2年生」は「生物環境科学科2年生」へ訂正願います。関係者の皆様にはご迷惑をおかけしました。お詫び申し上げます。

(編集担当：畔柳 正)